

心ふれあう

ちょっと

おやかまのちょっといい話

シリーズ 22

※チラシは偶数月の第一日曜日にご覧いただけます。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

おもてなしの心

友人に誘われて、茶道を習う様になりました。私が学んでいるのは裏千家です。お点前には作法があり、それを一つづつ繰り返し学びます。お茶を習う前は、茶道には多くの決まりがあつて、堅苦しいイメージがありました。しかし実際に学ぶとすべての作法に理由があることがわかりました。道具を置く位置、順序、手の動かし方に至るまで、すべてが合理的に考え抜かれていることがわかり、先生と友人が一つ一つ教えてくれるので、納得しながら練習をすることが出来ました。

間は心を落ち着けることができる貴重な時間となっていました。ある日、オーストラリアからやってくる一行に茶道を体験して頂くという事で、私たち生徒もお手伝いをする事になりました。

当日朝、友人から電話がかかってきました。なんと、先生が熱を出して今日のおもてなしを頼まれたというのです。私も友人もまだお茶席デビューしたばかりで、そんな大役を果たせるほどの技量はありません。でも、友人と「やるしかないよね」と励まし合つて出かけました。私たち生徒5人だけでできるのか本当に不安で、時計とにらめっこしながら、何とか準備を終え、お迎え

先生からはお点前より何より、おもてなしの心が一番大切だと言われました。ただ、抹茶を頂くのではなく、どうすればもっと楽しんでいたかを考えて、私たちがお茶を準備する様子、そして何をしているのかコーディネーターの方に話し、通訳してもらいました。

皆さんは初めて見る茶道に興味津々で、また、その意味も理解してくださった様子でした。私たちもなんと大きな失敗もなく無事終了することができました。その後いろいろな質問が出たりして、私たちがわかる範囲はお答えしました。そこで、正直に事情をお話して、まだまだ未熟な私たちですが、精いっぱいやらせて頂きましたと伝えると、お客様も感激してくださって、盛り上がりました。

つしか和室でお茶の稽古をする時

しました。

先生の急病というハプニングがありました。先生が私たちにとってはとても良い経験をすることができました。「おもてなし」の心と言うのは文化を超えてきつと伝わるものだと感じましたし、国際化という事で英語の勉強も大切だと思えますが、それ以上に日本人として日本の事をしっかりと発信できることが大切であり、また求められるのだと実感する出来事となりました。



一層、稽古に励んで自信を持つてお迎えできるようにになりたいですね。

あなたのアーバンホール

アーバンホール

葬儀・法要・ギフト

一期一会 千利休

茶席において、二度とないこの巡り合いを大切に、お互い敬意を尽くす大切さを説いた言葉です。今できる最高のおもてなしはきっと相手に伝わるものです。

皆様の『心ふれあう おかやまのちょっといい話』をお寄せください。ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしています。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市堀南805-1◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。